

令和3年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和4年2月25日
函館市立あさひ小学校

1 本年度の重点教育目標

- ひとりでできる みんなとできる 明日に向かって 学びをつなぐ

2 本年度の取組の重点

- 社会に開かれた教育課程の実現に向け、コミュニティ・スクール（青柳ネット）による協働体制の下、本校の教職員の協働意識を高め、グランドデザインに基づいた学校運営とカリキュラム・マネジメントの推進を図る。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分 野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価	
		誠 懇	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の適切さ
① 確かな学力を育む教育の推進	・めあて・まとめ・振り返りを1単位時間の学習過程に確実に位置付けるとともに、1人1台端末等ICTを効果的に活用し学習内容の確実な定着を図ることができたか。	a	・ICTを最大限活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に捉え、主体的・対話的で深い学びの実現に向け授業改善を図る。	A	A
	・学習規律や視写指導、教室掲示等の学習環境整備等のユニバーサルデザインの視点での授業改善を図り、子供が学びを実感できることができたか。	b	・UDの視点での授業改善、家庭学習の取組を全学年で統一して進めた。更に徹底を図り、子供自身の振り返りを確実にする。	B	A
② 豊かな心を育む教育の推進	・学校の教育活動全般を通して、道徳的な判断力や実践力の向上が図られているか。	b	・道徳を中心に、全教育活動を通して、多角的、多面的に考え方を見つめる場面を工夫する。	A	A
	・コミュニケーションの基本としての挨拶や返事などを通し、公共心、社会性を育むことができたか。	a	・挨拶等子供の育ちを地域に実感していただく等の成果を今後も粘り強く継続して取り組む。	B	A
③ 健やかな体を育む教育の推進	・全国体力・運動習慣等調査を生かし体育科や休み時間の運動を通して、体を動かすこと、継続することの楽しさを味わわせることができたか。	b	・今後もコロナ禍における感染防止対策を徹底し、子供の安心・安全を確保し、めあてを明確にした授業改善に取り組む。	A	A
	・家庭と連携した食に関する指導、食育だより、保健指導、保健だより等を通して健康維持への关心・意欲を育むことができたか。	b	・見通しを持たせた生活習慣の改善、食育指導、保健指導の工夫を図るとともに、歯磨き指導、がん予防教育等を充実させる。	B	A
④ 学校における指導体制等の充実	・「わかる」「できる」授業を進めるために、専科指導、少人数指導による授業形態の工夫、支援員等の活用、補充学習の徹底を図ることができたか。	b	・専科指導、少人数指導、特別支援教育支援員、学習指導員を有効活用した指導体制の充実に今後も努めていく。	B	A
	・グランドデザインをもとに、学校における業務改善に向けた取組を進め、教員の資質能力の向上と子供と向き合う時間の確保を進めることができたか。	a	・職員会議、校内研修の大幅な見直しによる業務改善を進め、子供と向き合う時間の確保に努めた。	A	A
⑤ 家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	・青柳ネット（コミュニティ・スクール）の取組を通じ、家庭・地域が一体となった学校運営の推進・充実を図ることができたか。	b	・青柳ネット防犯パトロール隊、PTAによる子供の見守りの充実、安心メールを活用した保護者との情報の共有を図った。	A	A
	・家庭・地域・学校が目指す子供像や重点教育目標・学校運営の基本方針を共有することができたか。	b	・学校通信、HP、授業参観、メール配信を通し、今後も子供の学び、育ちの見える化に努める。	B	A

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかつた（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。